会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第1委員会室
		担当職員	池永
日 時	平成28年3月28日(月曜日)	開 議	午前 10 時 30 分
		閉 議	午前 11 時 2 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者 出席者	【環境市民部】 中川部長、西田市民生活・保険医療担当部長 【保険医療課】 浦課長		
事務局	池永		
傍聴者	市民 -名	報道関係者 -名	議員-名

会 議 の 概 要

1 委員長報告の確認

(馬場委員長 報告案朗読)

<馬場委員長>

この内容で良いか。

<了>

2 議会だより原稿について

<馬場委員長>

この内容で良いか。

<福井委員>

保育土について、「賃金月額が上がることに」の後に、「なります」と付けてはどうか。

<馬場委員長>

あえて体言止めとしている。そのままどうか。

<了>

3 議会報告&わがまちトークへの回答について

<馬場委員長>

この内容で良いか。

<了>

~ 10 : 45

4 国民健康保険事業特別会計の執行状況について

[理事者入室] 環境市民部

< 環境市民部長 >

国民健康保険事業特別会計の執行状況について報告する。

< 環境市民部市民生活・保険医療担当部長 >

診療報酬の支払いは、国保連合会に事務を委託しており、毎月、国保連合会から請求があり、それに基づいて医療費を支払うというシステムになっている。平成27年度は医療費の増加があり、第4号の補正予算を3月14日に可決いただいたところである。しかしこのたび、国保連合会に支払うべき3月支出分の医療費が確定した。約6億3千万円、対前年度比19.5%増であり、我々が想定しなかった医療費の伸びとなっている。27年度はあと1回、4月支出分が最終支払いになるが、その請求によっては、補正予算で可決いただいた療養給付費が不足する可能性が出てきた。4月分の支出は、国保連合会からの請求により、27年度の支出負担という形で3月31日に額を確定させることになっている。その時点で歳出予算額が万が一不足した場合には、平成27年度会計により、すみやかに国保連合会に支払う必要があることから、ただちに3月31日付けで第5号の国民健康保険事業特別会計補正予算を編成しなければならないことになる。万が一そういう場合には、やむを得ず専決処分にて補正予算を執行させていただきたいと考えている。専決処分した補正予算については、次回開会する議会で詳細を報告することになるので御理解いただきたい。医療費増加の理由は担当の課長から説明する。

< 保険医療課長 >

(資料に基づき説明)

~ 10 : 52

[質疑]

< 馬場委員長 >

特定の病院で広がったのか。

< 保険医療課長 >

そうではない。病名は700万円台が胸部大動脈瘤、600万円台が拡張性心筋症と僧帽弁狭窄症である。C型肝炎の8万円の治療薬も、2月は2件だったが、3月は5件に増加しており、これも医療費の増加の原因であると考えます。

< 奥村委員 >

平成30年度から広域化になるが、こういうケースの場合、基金がなければ毎年保険料を変更していくのか。

< 保険医療課長 >

広域化になると、京都府から市に支払うべき金額が示され、それに基づいて保険料を賦課徴収する。年度途中で医療費が急激に増えても、本市が支払う保険料の額に変更はない。

< 奥村委員 >

府の貸し付けの制度は、広域化になっても残るのか。

< 保険医療課長 >

基金による貸付制度は存続する。

< 福井委員 >

最先端の医療や薬など、市の思っている財政とは別のところで医療が進歩していく。そうすると、確実にそれを使う人が増えて、想像を超える勢いで金額が伸びていく。

そのような認識で良いのか。

< 保険医療課長 >

本市では前期高齢者が増加しているので、基本的には医療費は増加傾向にある。ただ、平成28年4月診療分から、診療報酬単価が全体でマイナス1%と改定される。またC型肝炎の治療薬も、国の特例措置により4月から薬価が3割減額される。このように医療費が抑制される要素もあるので、医療費の推移を見守っていきたい。

~ 10 : 58

[理事者退室]

5 行政視察について

< 馬場委員長 >

行政視察の内容について、説明を。

(事務局説明)

< 馬場委員長 >

詳細は正副委員長に一任いただきたい。

< 了 >

散会 ~ 11 : 02